

「所沢市における地域公共交通の方向性について」答申

所沢市地域公共交通会議

持続可能な地域公共交通の確立に向けて、ところバス（見直しを含め）を軸とし、新たな地域公共交通の仕組みを再編すべきということが謳われている

1. 所沢市における地域公共交通の現状 ⇒ 比較的恵まれている

(1) 市内のバスの現状

- ・西武バス(株)が37系統の路線バスを運行。1日平均31,475人(H27)。
- ・ところバスが4路線6コースを運行。1日平均1,086人(H27)。

(2) 市内のタクシーの現状

- ・市内タクシー事業者は11社。総車両数は259台

(3) 市内の鉄道の現状

- ・11駅（秋津、所沢、西所沢、小手指、狭山ヶ丘、航空公園、新所沢、下山口、西武球場前、遊園地西、東所沢）あり、1日平均410,559人(H27)。

2. 所沢市における地域公共交通を取り巻く課題

(1) 民間交通事業における課題

- ・路線バスは、通勤・通学利用者の減少等により、減便せざるを得ない状況。
- ・タクシー事業では、景気の停滞や燃料費の高騰、運転手不足、利用者減少。

(2) ところバスの課題

- ・平成10年度から、「交通不便地域の解消」「高齢者・障害者等の交通弱者対策」「公共施設利用の利便性向上」の目的のもとに運行。近年は、輸送人員(H27:391,099人)、運賃収入(H27:113,265千円)ともに上昇を続けているが、「便数が少ない」「目的地までの所要時間が長い(コースの長大化)」という点で利便性に課題があるとともに、費用対効果や採算性が課題。

(3) 社会的な背景

- ・超高齢社会への対応（運転免許自主返納者の増加）、市の厳しい財政状況

3. 所沢市の地域公共交通の方向性

(1) 所沢市の地域公共交通の方向性

地域公共交通へのニーズが高まる。

(2) 持続可能な地域公共交通の確立へ向けて

①市が主体となった取り組み

今後は市が中心的に民間交通事業者と連携を図りながら取り組むべき。

②地域の实情やニーズを考慮した地域内完結型を目指す

地域の实情やニーズ等を把握し、分析しながら、地域での最寄駅等を起点とした地域内完結型の地域公共交通としていく必要がある。

③収益性の確保

ところバスの収益率を上げるため、経費削減と運賃収入の増加が重要。

4. 具体的な取り組みに関する提言〔短期・継続的〕

(1) ところバス等の利用向上策の実施

- ・コース・曜日・時間帯別ダイヤなど、利用者の増加を図る施策
- ・路線バスやタクシーの利用者を増やすため、民間事業者との連携も必要。

(2) 地域や利用者のニーズ調査の実施

- ・具体的なデータの収集と分析や地域・利用者の声を聞くことも重要。

(3) 市の庁内組織の連携

5. 具体的な取り組みに関する提言〔中長期的〕

(1) ところバスの抜本的改革に向けた取り組み

- ・中長期的な期間で抜本的な見直しを検討。

(2) 新しい交通手段（形態）の導入に向けた取り組み

- ・ワゴンタイプ、セダンタイプの小型車両の活用や個々の需要に応じて運行するデマンド交通といった新しい交通手段（形態）の導入検討。

(3) ところバスの抜本的改革、新しい交通手段（形態）の導入に向けた取り組みを行っていくうえでの共通認識事項

①運行目的

ウ。「公共施設利用の利便性向上」⇒市民生活に密接に関わる施設等へのアクセス向上

②コース等の検討の方向性

ア. コースのコンパクト化、ダイヤの効率化⇒時間短縮・増便と経費削減
イ. 路線バスやタクシーとのサービス重複の回避⇒役割分担と差別化

③収益性の確保へ向けた取り組み

- ・利用者が多く、高い収益性が期待できる地域やコース設定など、運行収入に直結する運賃形態（受益者負担の原則）の見直しを検討。

(4) 地域住民との協働に向けた取り組み

・「地域の足は地域で守る」という概念のもと、住民との勉強会などを実施し、地域ごとにところバスや新しい交通手段（形態）を検討する仕組みの構築。

(5) 市内鉄道駅間等のアクセス向上へ向けた取り組み

- ・恵まれた鉄道網を活かし、鉄道駅または鉄道駅間のアクセス向上を図る。

(6) 隣接自治体との連携に向けた取り組み

- ・隣接自治体とコミュニティバスの乗り入れ等を含めた地域公共交通に関する連携の推進。